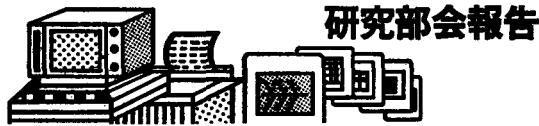


りあげる。呼種（クラス）数が2の時、FIFOモデルの解析結果といくつかの定性的関係式とを併用して、空間優先権待ち行列モデルにおける呼種別呼損率が導出可能なことを示している。

費用を考えた相対順位による選択の基礎理論

東京大学名誉教授 森口 繁一

一列に並んだ n 個のもののうち、なるべくよいものを



OR/MSとシステム・マネジメント

● 第6回

日時：平成4年7月9日(土) 13:30~17:00

出席者：17名

場所：東京工業大学100年記念館会議室

テーマと講師：「組織知能設計へのアプローチ」丹羽清(日立基礎研究所)

組織知能を組織に組み込み設計していく際の理論的基礎について論じた。

● 第7回

日時：平成4年10月24日(土) 13:30~17:00

出席者：16名

場所：東京工業大学100年記念館会議室

テーマと講師：「4GLによるプロトタイピング」佐藤亮(筑波大学 社会工学系)

業務システムモデルの必要性、業務取引システムを、一般システム論の立場から定式化し、DFDとの関連性を明らかにし、4GLにもとづく分析支援環境の構築を論じた。

● 第8回

日時：平成4年11月21日(土) 13:30~17:00

出席者：10名

場所：東京工業大学100年記念館会議室

テーマと講師：「EIS(役員情報システム)の記述モデル」小坂武(愛知学院大学 経営学部)

EIS/ESSに関して行なった面接調査にもとづく仮説構築により、日本のEISの現状を伝えるモデル(記

述モデル)として決定論的モデル、状況適応的モデル、進化論的モデルを定義し、それらのもつ説明力について論じた。

● 第9回

日時：平成4年12月12日(土) 13:30~17:00

出席者：15名

場所：東京工業大学100年記念館会議室

テーマと講師：「ソフトシステムズ・アプローチの現状—SSMを中心として」妹尾堅一郎(産能大学 経営情報学部)

SSMの歴史的な展開、SSMの実際(事例)を紹介しSSMの哲学的位置づけと方法論的位置づけを論じた。

● 第10回

日時：1月9日(土) 13:30~17:00 出席者：20名

場所：東京工業大学100年記念館会議室

テーマと講師：「情報から情絡への変換におけるOR/MSモデルの効用」松田 武彦(産能大学)

組織知能論を基礎として、情報から情絡への変換過程を明らかにするとともに、この変換過程におけるOR/MSモデルの効用と限界について論じた。

● システムモデリング手法とその活用

● 第6回

日時：平成4年10月22日(木) 14:00~16:30

出席者：15名

場所：九州大学経済学部 6階会議室

テーマと講師：「中国におけるOR・統計研究の現状」菅梅谷(中国・復旦大学OR・統計学科)

中国におけるOR研究の歴史と現在における学会組織や研究状況について報告した。

● 第7回

日時：平成4年11月24日(火) 14:00~16:30

出席者：10名

場 所：九州大学経済学部 4階407号室
テーマと講師：「ミニマックス線形方程式について」岩本誠一（九州大学経済学部）

ミニマックス問題における定式化の過程で現われる線形方程式の性質について論じた。

● 第8回

日 時：平成4年12月12日(土) 14:00～17:00

出席者：20名

場 所：九州大学経済学部 4階407号室

テーマと講師：1. 「ワープロ技術習得プロセスに関する統計モデル分析」西浦志磨子（麻生福岡短期大学経営情報学科）

ワープロ技術習得の条件となるものをアンケートの統計解析とマルコフモデルを用いて考察した。

2. 「不確実性下における生物資源捕獲のDPモデル」時政助（佐賀大学経済学部）

生物資源の成長とその捕獲をDPモデルにより記述し確率分布が既知の場合の性質などについて論じた。

● 情報システムの戦略的活用 ●

● 第6回

日 時：平成4年11月14日(土) 14:00～17:00

出席者：19名

場 所：芦大クラブ（大阪市中央区）

テーマと講師：「旅行形態の変化と情報システムの歩み」圓尾裕（近畿日本ツーリスト㈱ 常務取締役）

近年の日本人のライフスタイルの変化の中で旅行の位置づけがどのように変貌したかがデータにもとづいて紹介された後、昭和40年代以降に旅行業界で情報ネットワークがどのような分野でどのように活用されてきたかが業務ニーズの変化に対応させて紹介された。また、海外

旅行を支援するグローバル・ネットワークの活用として、欧米の周遊型旅行、豪州やハワイの滞在型旅行に対応した宿泊予約などのシステムの構築事例が示され、今後は外国人の海外旅行支援システムへと発展していく可能性が指摘された。

● システム・シミュレーション ●

● 第17回

日 時：平成4年11月19日(木) 18:00～20:00

出席者：19名

場 所：構造計画研究所

テーマと講師：「LSI生産ラインシミュレータ“SEM-ALIS”とライン評価事例」中村信二（NTT LSI研究所）

NTTのLSI生産ラインの概要と特徴を説明したのち、モデル化について解説された。装置モデル、工程モデル、ロット処理モデル等ラインモデルの構成が具体的に説明され、開発されたシミュレータを用いた設備計画やライン運用に関するライン評価事例が解説された。

● 人間的グローバル経営システム ●

● 第21回

日 時：2月6日(土) 14:00～17:00 出席者：7名

場 所：東京都勤労福祉会館（中央区新富）

テーマと講師：「新日鉄の情報ネットワーク」杉野 隆（新日鉄情報通信システム㈱）

新日鉄は年売上げ3兆円を越す世界一の製鉄会社で、しかもその製品は高品質・高精度の注文生産を主体とした多品種少量生産です。したがってその研究開発・生産・物流・営業にわたる情報処理量は誠に膨大なものがあります。それを一手に引き受けて成果をあげているのが3000人の陣容による新日鉄情報通信システム㈱です。

